

千年の森便り No.229

2022.11.25

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

11月20日（日）天候 曇

11月の活動日も天気予報は2週間前から傘マーク。活動日まで日頃の行いを反省する毎日でしたが…、当日は集合時間から解散までなんとか雨に降られずに活動を行うことができました（ラッキー！）。今回は少数精鋭で、ナラ枯れ枯死木の伐採、コナラ伐採地の調査、ホテイ岬の整備などを手分けして行いました。

今年の紅葉は少し早いようで、豊英島ではクロモジの黄葉やモミジの紅葉が始まっており、秋のカラフルな森を楽しむことができました。ただ、今回はどんよりとした曇り空で日差しもなかったため、青空に映える紅葉は次回の活動日に期待したいと思います。



参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、大原、苅米、久我夫妻、坂本、福島の9名でした。（福島）

○ナラ枯れ枯死木の伐採

今年の春までの調査で島内には100本を超えるコナラの枯死が確認されていますが、今年も数十本が枯死したとみられ、枯死木すべてを伐採するのは困難な状況です。そこで、活動の中心となる場所を優先して枯死木の伐採を進めています。

今回の伐採作業は、苅米、鶴沢、福島と、久我、伊藤の2班に分かれて行いました。伐採本数は各班7本で合わせて14本、樹種はすべてコナラです。私は、苅米さん、鶴沢さんと太い木を中心に伐採作業に参加しました。作業を行って感じたのは、今年枯れた木はまだ腐朽が進んでいないためかかり木になりやすいということです。かかり木になってしまうとワイヤーとチルホールを使って処理することになり、時間と労力がかかってしまいます。多数の枯死木を効率よく伐採していくためには、枯死から1年以上経過した木から伐採していく方が良かったと感じました。

また、鶴沢さんの記事にもあるように、今回は伐倒時にヒヤッとする場面がありました。伐倒時に伐採木に近づき過ぎていて十分な退避ができなかったことによるものです。今後も継続して枯死した危険な木の伐採を進めていく必要があることから、ヒヤリハット事例として共有し、改めて安全作業に努めたいと思います。（福島）

ナラ枯れによる伐採作業も11月で何回目だろうか。昨年7月8月にナラ枯れの被害木調査から始まり、11月には伐採がはじまり観察会の時を除いてほとんど毎月行ってきたようだ。

今回午前中4本、午後3本の計7本の伐採を行った。ナラ枯れで枝まで完全に枯れている木は、倒れながら枝も折れていくようであるが、そうでないものは枝掛かりでチルホールを用いての作業が追加される。今回も一本

が枝掛かりになってしまった。時間のロスを感じてしまう。

今回、伐採の木が、過去に枝掛かりになっていた木の上に乗れ、私の間近に落ちたが危うく難を逃れることができた。今回のヒヤリハットである。

伐採作業が始まって一年になるが、そろそろ慣れによる気のゆるみが出てきたようだ。これからも気を引き締めて作業にかかっていきたいと思う。一年間無事故で来られたことに感謝しながら。(鶴沢)

掛り木の心配のない小径木については、伊藤、久我の2人で処理を行った。作業は電動チェーンソーの習熟も兼ね、伐採、玉切り、枝払いなどを行った。軽量なので、疲労も少なく安全確保のためにもアマチュア向きと実感した。バッテリー1ケで20分とのことだったが、7本の伐採には2ケで十分だった。

個人的には、昨年12月の作業時には、追い口を入れて数秒で倒れてしまい冷や汗をかいたが、今回は想定どおりの伐採が出来た。しかし、切り株(ツル)の写真はとても見せられない。(伊藤)

○ほてい岬方面の片付け

先月のきのこ観察会の際、ナラ枯れ被害木を切り倒した後の残骸などの片付けが追いつかず、林内の歩き難さを痛感したので、手始めにほてい岬方面から片付けを試みました。

ほてい岬の辺りは倒木に加え竹材を利用した後の枝が付いたままのマダケの上半分や自然枯死の竹が散乱して特に乱雑なので最初に手掛けました。

これらを一か所に集積して不自由無く歩けるようにするのが目的です。竹の残渣は枝払いして稈と枝とを分ければ良いのですが、単独作業で手が足りない

ので枝付きのまま適当な長さに切り詰めて積み上げました。これでは嵩張るだけなので、上に重石代わりにナラの落ち枝を載せて圧縮しました。午前中はホテイチクの保護柵内、午後はマダケ林の周辺で、それぞれ30m四方程度の片付けが精一杯でした。(坂本)



ホテイチク林片付け後

○11月の花と実と紅葉

コナラ伐採地の中高木区域の下草刈りを8月に続き行いました。除去した植物はサルトリイバラ、ノイバラ、アカメガシワ、コウヤボウキ、クロモジと常緑のシイ・カシ類、ヒサカキ、アセビ等です。風通しが良くなりより明るくなったように思います。草地・低木区域は繁茂したコウヤボウキの間引きとアセビ、シイ・カシ類を剪定除去しました。

この時期の楽しみは何と言っても野菊と紅葉です。キヨスミギク、シラヤマギク、リュウノウギクが例年のように確認できました。シロヨメナについては分かりませんでした。ヒイラギの白い花は初めてで、甘い香りを期待したのですが曇り空と花数が少ないためなのか、匂いはわかりませんでした。リンドウがら、6株つぼみをつけていました。蕾はふっくらしていました。赤い実はサルトリイバラやノイバラ、コバノガマズミ、紫はムラサキシキブ、白い羽毛のような羽をつけたハンショウツルのそう果とトキリマメの豆果を今年初めて確認しました。うまく繁殖できるか分かりませんがハンショウツルの種子を持ち帰りました。繁殖に成功し、ある程度成長しましたら保護柵周辺に移植したいと思っています。



キヨスミギク

コウヤボウキ

リュウノウギク

ヤマウルシ



シラヤマギク

不明 A

オケラ

ヒイラギ



コバノガマズミ

ハンショウヅル

トキリマメ

ムラサキシキブ



ウリカエデ

ヌルデ

シロダモ

リンドウ

紅葉していたのはヤマボウシ、イロハモミジ、ウリカエデ、不明 A、ヌルデ、オケラは暗黒褐色をしていて興味深く観ました。

コナラ伐採地以外では、シロダモが黄緑色の花と赤い実を同時につけていました。(秋元)



アカシデ(坂本)

カマツカ(坂本)

水面の落葉(坂本)

〇コウタケは残った

竹林整備の為に保護柵の中に入ると足元に黒い塊があったので、屈み込んでよく見ると古くなったコウタケでした。先月の観察会では全く見当たらず、環境変化で絶滅したかと思っていたところなので発生が確認出来て一安心でした。その数は 20 数個でしたが、巨大サイズは見当たらず普通サイズが数個、あとは小振りなものばかりでした。恐らく今月初旬に発生し、その後は雨が少なかったなのでこの日まで辛うじて残ったものと思います。それにしても随分遅い発生と思いました。

コウタケ以外で目についたのはナラ枯れの落ち枝に自然発生したシイタケと広場近くで発見のアカモミタケでした。(坂本)



コウタケ



天然シイタケ



広場の近くで見つけたアカモミタケ

○センサーカメラの動物たち

今回は多くの動物が記録されました。これまで確認されたあらかたの種が記録されました。秋の実りと冬への備えのための入島なののでしょうか。動物たちにとって、島は重要な地域となっていると思わせてくれます。集団での行動はニホンザル、ニホンジカは家族単位でしょうか2、3頭が多いようです。複数のアナグマ、久しぶりのアライグマ、タヌキは2頭で行動しているようです。キョンはいつものように単独行動です。



ニホンザル親子

設置期間：8月21日から10月10日まで

※日数は確認した日数です。同じ日に複数回記録されても1日としています。

CAM1：吊橋着岸点付近

アナグマ	9日	昼間・夜間	ハクビシン	11日	夜間
ニホンジカ	11日	昼間・夜間	アライグマ	2日	夜間
タヌキ	3日	夜間	キョン	1日	夜間
ニホンザル	7日	昼間・夜間			

CAM2：ホテイ岬への分岐点付近

アナグマ	1日	夜間	ハクビシン	7日	夜間
ニホンジカ	19日	昼間・夜間	タヌキ	2日	夜間
キョン	9日	夜間	ニホンザル	4日	昼間

CAM3：ホテイ岬先端付近

ニホンジカ	5日	昼間・夜間
-------	----	-------

(秋元)



アライグマ

アナグマ

ハクビシン

タヌキ

お知らせ

○次回活動日は12月4日(日)です。

12月の活動日は豊英島の紅葉にあわせて第一日曜日としています。青空に映える紅葉を期待したいですね。活動内容は、ニホンジカ生息状況調査、植物観察、危険木の伐採などです。多数の会員のご参加をお願いします。

なお、活動に参加する際は、感染症対策、マダニ対策、危険防止のためのヘルメットの着用をお願いします。